

令和元年度 第3四半期 (10月～12月)

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

全産業業況 DI 値は前回調査から 16.2 ポイント悪化、平成 30 年度第 3 四半期からは 31.3 ポイント悪化

■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲31.9 (前期比▲16.2、前年同期比▲31.3)、来期見通し (1月～3月) について、業況 DI 値は▲31.1 (当期比+0.8) となった。

引き続き人手不足や不安定な国際情勢の影響で業況が悪化しているとの声や消費税率の引き上げ、天候不順による売上低迷の声が多く聞かれた。来期も人手不足による利益確保が困難との先行きを不安視する声が聞かれた。

設備投資については、「実施した」との回答が 36.8 (前期比+3.7、前年同期比+0.1)、来期に設備投資を「計画している」との回答は 35.2 (当期比▲1.6) となった。

■製造業

業況 DI 値は▲36.3 (前期比▲11.3、前年同期比▲38.8)、来期の見通しについては▲38.5 (当期比▲2.2) となった。

産業機械製造業では、産業機械・自動車市場において米中・日韓問題の影響などによる需要の停滞が見られる他、印刷業では、カレンダー・年賀状などの仕入れ価格の上昇や受注量の減少から利益確保が困難との声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「人件費の増加」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

■建設業

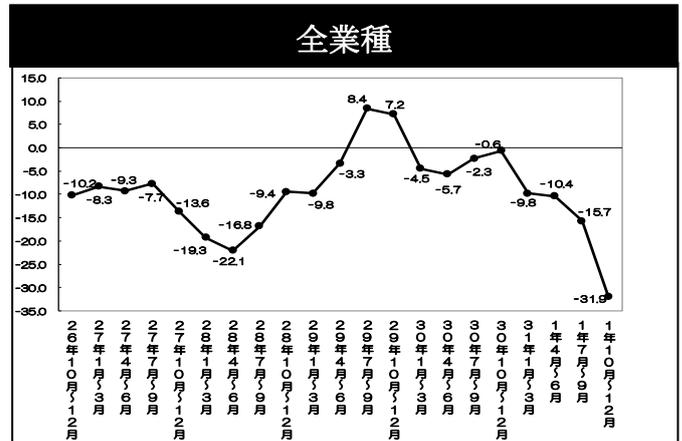
業況 DI 値は▲16.7 (前期比▲12.9、前年同期比▲16.7)、来期の見通しについては▲16.7 (当期比±0.0) となった。

消費税率引き上げに伴う駆け込み需要後の落ち込みや公共・民間工事とも受注量減少による売上低迷の他、受注はあるものの依然として人手不足が厳しいとの声が業界全体で聞かれる。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「官公庁需要の停滞」、「民間需要の停滞」が主に挙げられる。

調査概要

- 調査対象
 - (1)対象地区：豊橋市内
 - (2)対象企業数：339 社
 - (3)回答企業数：170 社 (回答率 50.15%)
- 調査期間
令和元年 10月～12月
- 調査方法
往復はがきによるアンケート調査
- 回答企業の内訳
製造業 80・建設業 24・卸売業 18
小売業 22・運輸業 13・サービス業 13

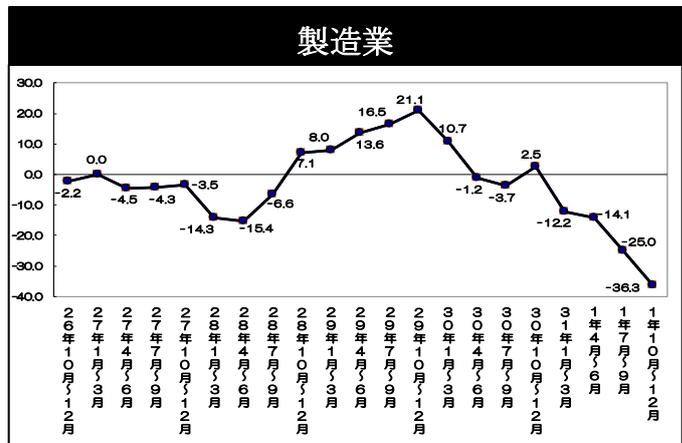


《A》 前年同期 (平成30年10月～12月) と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI 値	
8.6%	50.9%	40.5%	▲31.9	↓

《B》 来期 (令和2年1月～3月) の景況見通し

良い	同様	悪い	DI 値	
8.1%	52.8%	39.1%	▲31.1	↑

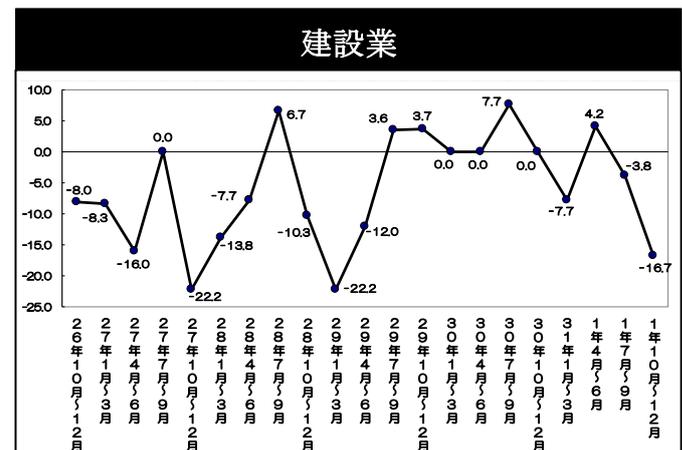


【前年同期比】 令和元年10～12月

自社の業況	▲36.3	↓
-------	-------	---

【来期見通し】 令和2年1～3月

自社の業況	▲38.5	↓
-------	-------	---



【前年同期比】 令和元年10～12月

自社の業況	▲16.7	↓
-------	-------	---

【来期見通し】 令和2年1～3月

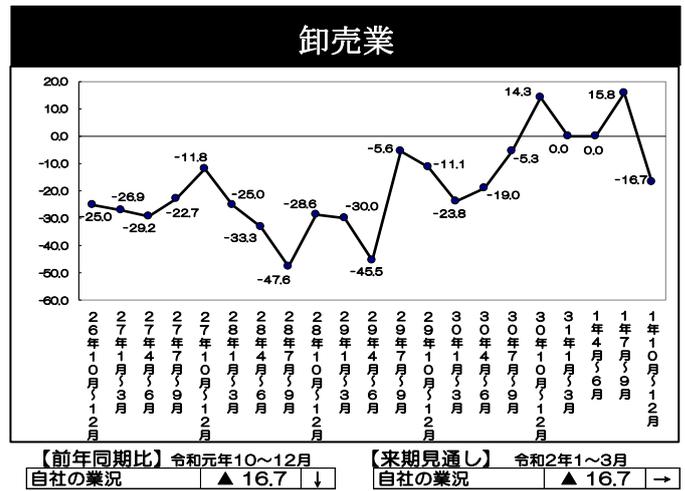
自社の業況	▲16.7	→
-------	-------	---

■卸売業

業況 DI 値は▲16.7（前期比▲32.5、前年同期比▲31.0）、来期の見通しについては▲16.7（当期比±0.0）となった。

ペット関連業では原材料不足から、欠品の発生や仕入価格が上昇したとの声や、食品関連業では中堅・小規模スーパーの入荷量や客単価の減少で利益確保が困難との声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「人件費以外の経費の増加」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

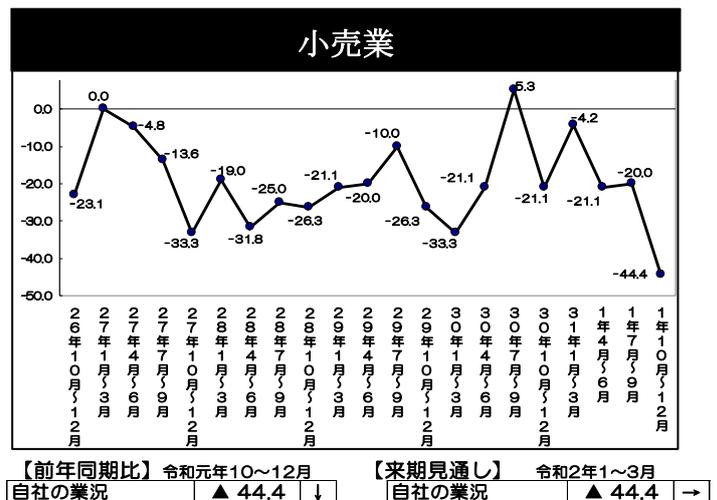


■小売業

業況 DI 値は▲44.4（前期比▲24.4、前年同期比▲23.3）、来期の見通しについては▲44.4（当期比±0.0）となった。

衣類販売店では、消費税率の引き上げの影響で売上が伸び悩むなど収益確保に苦しんでいる模様。食料品販売店では、キャッシュレス決済の利用は見られるものの売上増加につながっていないとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「従業員の確保難」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

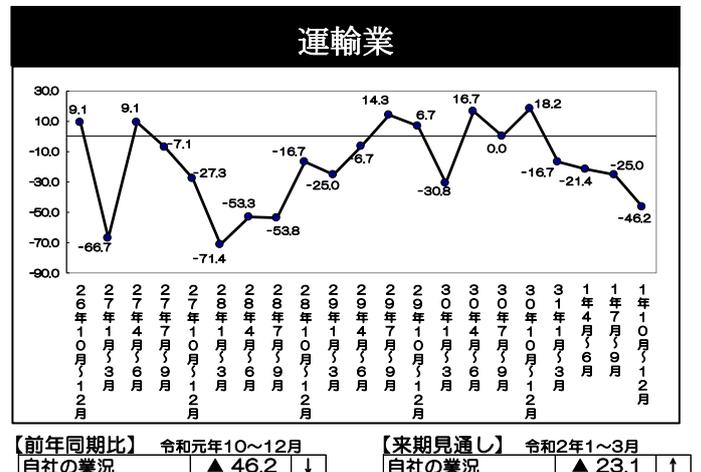


■運輸業

業況 DI 値は▲46.2（前期比▲21.2、前年同期比▲64.4）、来期の見通しについては▲23.1（当期比+23.1）となった。

引き続き人手不足に悩む声が多く聞かれる一方で、東京オリンピック・パラリンピック開催やネット通販等の影響で物量は増加傾向にあり、先行きは明るいとの声も聞かれた。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「人件費の増加」「需要の停滞」が主に挙げられる。



■サービス業

業況 DI 値は▲20.0（前期比▲4.6、前年同期比+5.0）、来期の見通しについては▲20.0（当期比±0.0）となった。

ショッピングセンターでは、ツアー客によるインバウンド需要はあるものの、一般顧客数が伸び悩んでいるとの声が聞かれた他、依然として業界全般で人手不足に悩む声が聞かれ、先行きを不安視する声が多く聞かれた。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」、「需要の停滞」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

